

研究滞在記

氏名 小田研人

所属 材料機能化学研究系 ナノスピントロニクス 博士後期3年



私は化学研究所若手研究者国際派遣事業の援助を受け、9月1日から9月30日までの間、スペインのバスク地方ドノスティアに位置するCIC nanoguneに滞在いたしました。Nanoguneとは、バスク自治政府がバスク地方の科学分野を盛んにするべく10年ほど前に設立した独立研究機関です。大学院生以上の学生やスタッフしかいないことから、京大化研と近い雰囲気があります。ここでは様々な研究室の学生が一つの居室にてデスクワークを行います。そのため、異なる研究室の人との交流の機会が日常的にあり、共同研究が行われやすい仕組みになっております。また、コーヒーブレイクが頻繁にあり、そこでは研究や実験技術から政治的な話題についての議論が盛んに行われております。その中で印象に残ったことは、他国の学生が英語を流暢に話せる背景として、自国内に大学・企業の就職先があまりなく、国外での就職を余儀なくされている事情があると知ったことです。この事から、いかに日本が大学や企業の研究機関等の国内の就職先に恵まれているのかを改めて実感しました。

滞在先では、ほぼ同期にあたるJuanma君と協力して、反強磁性酸化物MnO/非磁性重金属Ptの磁気抵抗効果の測定を行いました。得られたデータについてFelix先生と議論する際、彼がどこに着目し、どのような思考過程で結果を説明するのかを聴いて、研究の進め方を改めて学び取りました。また、過去に投稿された論文の裏話や、最近の研究の動向など表に出てこない最新の知識を吸収することができました。毎週データのまとめや解析を行い発表するのは過酷でしたが、3カ月ほどで行うはずだった実験を幸運にも1カ月で行うことができました。

また、フランスの雰囲気を取り込んだオンドリビアやピカソの絵で有名なゲルニカ、有名なファッションデザイナーの出生地ゲタリアなどの村に足を運び、バスク人の文化を感じました。様々なバルにも足を運び、写真に載せたような料理(Pintxos)を味わうこともできました。最後に、このような貴重な機会を頂けたことに関しまして、関係される方々に深く感謝申し上げます。

